

大阪府知事らによる、オスプレイ訓練受け入れ発言に抗議し、撤回を求める意見書

大阪府の松井一郎知事（日本維新の会幹事長）は、米軍普天間基地（沖縄県宜野湾市）に配備されている、米海兵隊の新型輸送機MV 22オスプレイの訓練の一部を、八尾空港（大阪府八尾市）で受け入れる意向を、菅官房長官との会談で表明した。

オスプレイは、開発段階から墜落等を繰り返し、昨年4月はモロッコ、同6月はフロリダ州で墜落事故を起こし、多数の犠牲者を出している。また機体にオートローテーション（自動回転）機能がない欠陥機と指摘されており、日本政府も答弁書（2011年7月）で、「全エンジンが不作動になった状態で、オートローテーション飛行に移行しない場合、安全な着陸に支障をきたす可能性がある」と述べている。

沖縄県内では、「人口密集地の上空飛行を避ける」という、訓練の運用ルールは守られておらず、県や市町村が「昨年10、11月の2ヶ月だけで818件の違反」を指摘している。

またオスプレイが配備された、昨年10月から今年3月末までの半年間、宜野湾市内で、航空機騒音が9844回発生し、前年同期比で14.8%（1206回）増だったことが、沖縄県と宜野湾市の騒音測定で明らかになっている。また日米が航空機騒音規制装置（騒音防止協定）で定めた、運用時間を大きく超えた普天間基地への着陸など、沖縄の負担はますます増大している。

訓練受け入れは「沖縄の負担軽減のため」というが、沖縄県議会は昨年、「米軍普天間飛行場の固定化に強く反対し、オスプレイ全機の撤収と米軍普天間飛行場の閉鎖・撤去を強く要求する」との決議を、全会一致であげている。沖縄県民はオスプレイによる痛みを、全国に押し付けることを求めている。

また、オスプレイ離着陸の際、基地周辺では90デシベル前後の騒音が記録されている。オスプレイが八尾空港を拠点に訓練を行うことになれば、現在も自衛隊ヘリの離発着訓練・演習を行っている、信太山演習場を使用する可能性があり、和泉市でも騒音被害が発生し、教育活動にも大きな影響を与えることになる。

よって、本市議会は、オスプレイの「訓練受け入れ」発言に抗議し、「訓練受け入れ」を撤回することを、強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成25年7月26日

大阪府和泉市議会

大阪府知事 殿